
6. 三日目(B)・Scott Russell Aqueduct ～ Edinburgh Quay

クルーズ三日目後半、今回はこの運河の最終区間です。

最初の対向船をやり過ごした後、次々に西へ向かうボートがやってきました。みんなエディンバラ見物を済ませて、ファルカークへ帰るか、そこから更にグラスゴー方面に向けて足を伸ばすつもりでしょう。このぶんではエディンバラの係留場所は空いているに違いありません。人と行動パターンをちょいと変えると、いろいろ都合のいいことが多い。

*

ところで、こんな風に運河がカーブしている場所で他の船と行き逢うとき、この船をどうよけるか迷ってはいけません。水路がまっすぐだろうと、どちらに曲がっていようと、自分はいくまで水路の右半分へ入るよう努めることです。但しセンター・ラインはありませんから、見当で……。相手も同じように向うから見て右半分、即ち、こちらの左手に来てくれるはず。それを疑ってはいけないのです。ここで疑いだすとキリがなくなります。歩道で前から来る人とぶつかりそうになる、あの状態になることだけは避けましょう。左舷対左舷 **port to port** を忘れずに……。信頼の原則です。



それからもう一つ、例えば、次の写真のような場合。



これは、丁度橋の下で対向船と行き逢いそうな位置関係になった時です。橋の下は運河の巾が狭くなっているのが普通で、巾の狭いナロー・ボートでもそこではすれ違いが出来ません。だから、そういう時はどちらかが橋の手前で待機するわけです。杓子定規に言えば橋に近い方に優先権があると考えるべきでしょう。

しかし、下りて距離を計るわけにはいかないし、そこはお互いに楽しみに来ているんだから、とんがらずに、お先にどうぞと言う気持ち大切です。車で走ってたってこういう場面は多々ありますね、おんなじです。でも、あくまですれ違いは、左舷対左舷 **port to port** であることをどうぞお忘れなく。

*

スコット・ラッセル・アクエダクトを過ぎると、エディンバラの市内に差し掛かります。地図の地色が左下隅以外は全体に濃くなっていますね、市街地に入ったということです。まあ、市内といってもこの辺はまだ住宅地域で、それほど立て込んでいるわけではありませんが、これまでの、のどかな田園風景とは丸っきり違います。



例えば、最後の大きい水道橋である赤い星印、Slateford Aqueduct スレイトフォード・アクエダクトの上からの景色も、住宅あり、オフィス・ビルありで、昨夜泊まったアーモンド・アクエダクトなんかとは全く違うんです。このアクエダクトの下にも Water of Leith ウォーター・オブ・リースという川があるんですが、木立に囲まれて流れは全く見えず、家の屋根をまたいだけという感じでした。橋の上からはずっと遠くにエディンバラ城もチラッと見えていました。



中央から少し右の遠方に、象の背中のような山がありますね。 コレは市の東ハズレにあるホーリールード・パークという公園の山で、アーサーズ・シート Arthur's Seat と呼ばれています。

その象の鼻先の辺りに木が一本あって、更にその左側に、ビルの頭のようなものがちょこっとのぞいているでしょう？ これがエディンバラ城、の筈。

ここからはまだ5キロ位あります。

*

この水道橋を渡ってまもなく、運河としては珍しいものとすれ違いました。

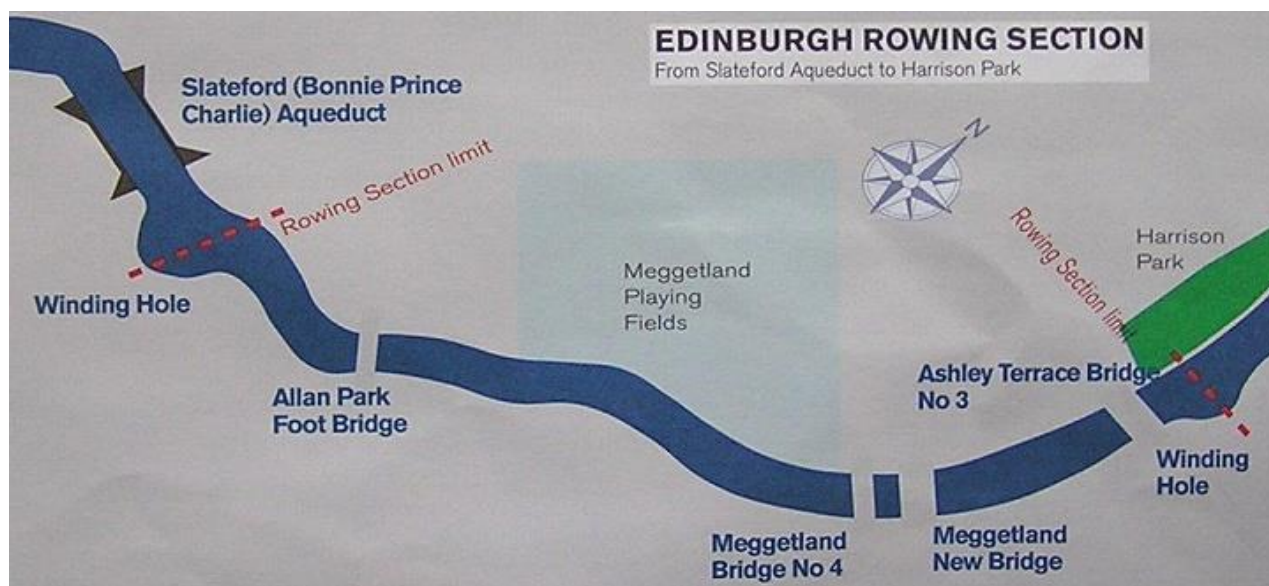


やってきたのは、シェル・フォア shell four 又は舵付きフォア coxed four と呼ばれる4人漕ぎボート。 女子大生チームのようでした。

昼までにエディンバラに着いてしまいたくて、今朝早出したのは実はこの為だったのです。 赤い星印のスレイトフォード・アクエダクトから、この先の黄色の星印 Harrison Park ハリソン・パークまでの間は、エディンバラ大学をはじめ地元の各漕艇チームの練習区域に指定されています。

*

ガイド・マップにも次のような分図で注意喚起をしていました。



それによると、7～8月の観光シーズン中はナロー・ボートに対する通行制限はありません。しかし、9月から6月までの平日の午後、特に15:15から17:15の間はナロー・ボートは原則通行禁止なんだそうです。そして、今はまだこの制限期間中です。漕艇チーム絶対優先です。

どんなに遅れても15時15分までにはこの区域をクリアーできるだろうとは思いましたが、午後になれば気の早いヤツは漕ぎ出すかもしれない、だから午前中に通過してしまおうと思って早出して、今はまだ10時台になったばかりなのにこの始末。

向うの勝手にこうなったのだから当方に責任は無いんですが、とにかくコッチは動力船、歩行者じゃなかった手漕ぎボートを優先しなければなりません。こういうボートは極細ですが、長ーいオールが4本ですから広い水面をほしいわけ。

ピッタリ右側の岸につけてタププリ水をあけてあげました。にも関わらず、やっぱりジョシダイセーはモタモタ、オールの先を向こう岸の草に引っ掛けたりしてバラバラ、危なっかしく、でも、何とか無事に通過してゆきました。

ツタク、これだもんナー。こんなのが何隻も続けて来たらたまりません。

*

次が、ハリソン・パーク。郊外住宅地の市民の憩いの場所。平日の午前中なのに、運河沿いの散策を楽しむ人がけっこういました。この辺に舫っているナロー・ボートも殆どが船上生活をしている人たちのものだったようです。



この辺りのトウパスは砂利道・泥道ではなくて、きれいに簡易舗装されている様子です。それはそれで靴も汚れず、いいのですが、味気無いと言うか、これじゃ土を踏む快感がありませんねー。 やはり都会人は軟弱か？

*

そして、これが最後の橋、Leamington Lift Bridge レミントン・リフト・ブリッジ。



黒い鋼鉄製の部分を持ち上げて船を通すのです。橋を下ろすと、右下の茶色の部分と橋の黒い部分の上面とがツライチになって人や車が通れるようになります。橋が下りた状態

では水面から橋の上面まで1メートルも無く、橋の下面と水面はひたひたです。

黒い陰になっちゃってますが、左端に居る帽子のオジサンが橋の番人で、彼のモバイルに電話を入れると、橋の持ち上げのために待機してしてくれるのです。しかし、これにも時間制限があってこの季節では17時30分までに通れ、ということになっています。

でも、朝は何時から、とは明記してありません。まあ、常識で判断してヨ、ということでしょうね。

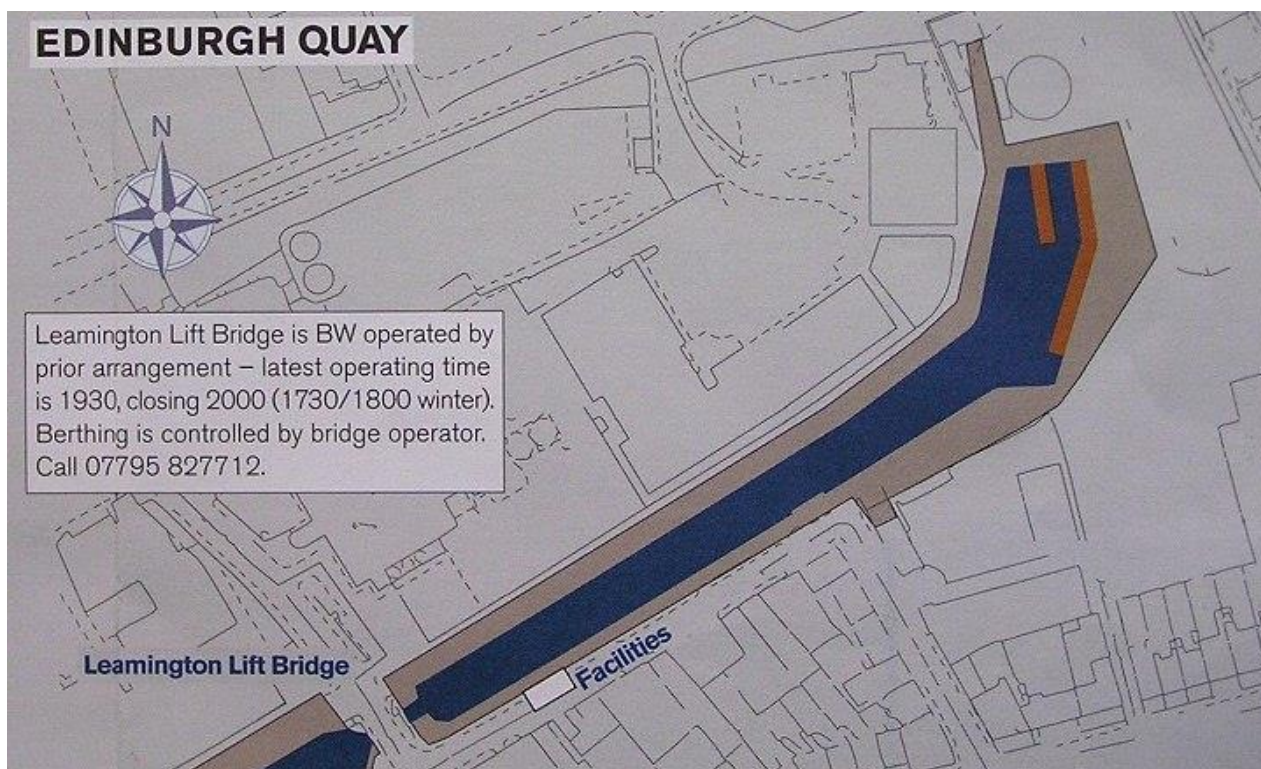
橋の下から向うに見える突き当りが運河の終点です。突き当たりの建物の手前で左へ曲がると、係留棧橋がありますが、そこでの係留許可もこのオジサンからもらいます。

私達は、市内に二泊したかったのですが、出来ればここに繋ぎっぱなしにしたかったんです。

でも、正式にはビジターの係留は24時間以内、とされているようなので、オジサンに聞いてみました。ここに二晩泊まりたいんだけど、どうでしょうか？

「アア、いいですよー、ノー・プロブレム、エディンバラをゆっくり楽しんでネー」とイイ返事。良かったヨカッタ、これでゆっくりエディンバラ見物が出来ることになりました。やっぱり、人と違う行動パターンのおかげか。今日すれ違ったボートの数から見ても、昨日までは結構一杯だったのかもしれませんが。

*



上がユニオン・キャナルの終点、エディンバラ・キー **Edinburgh Quay**。

ビジター棧橋はどん詰まりの茶色の部分。 この棧橋は入り口に鍵のかかる鉄格子の扉が付いていて、一応部外者はシャットアウトできるようになっていました。 勿論、それでも無理に入ってこようとすれば簡単に入れますが、とにかく、一応立ち入り禁止だよ、という意思表示にはなるわけです。 今の世の中のセキュリティなんて所詮そんなものでしょう。 完璧な戸締りなんてできない、と思ったほうが間違いありません。

昨日の牧場脇の散歩道(みたいなもの)すら立ち入り禁止と言われりゃ、「良識ある」私達は踏み込まなかった。 でも、ハナッからソノ気のあるヤツは当然のように無視々々でしょうからねー。 だから、船を離れる時はパスポートやカードなどは常に身に付けてゆきます。 この棧橋は水道設備も完備だし、町の中心だって徒歩圏内、しかも案外静か。

私たちにとっては快適この上ない仮の宿でした。



エディンバラ・キーのビジター棧橋の先端に舫った **Little Weaver**。

右手の建物はさっき橋の下で突き当たりで見えていたものです。 不動産業者のオフィス

だった形跡はありましたが、既に廃業したらしくヒト気が無く中は荒れていました。エディンバラはスコットランドの政治・文化の中心として長く栄えてきた都市で、現在もスコットランド全土の観光拠点として、又、当市自身も観光都市として多くの観光客を受け入れています。

しかし、ここにも不況の波は押し寄せているらしく、街を歩くとテナント募集の張り紙の付いた商店やオフィスがとても目立ちました。今回私達は行きませんでした。重工業中心のグラスゴーの落ち込みはもっと深刻なんじゃないでしょうか。

最終コーナーを回り込むとこんな様子。



正面の青いビルの手前で運河は行き止まりです。旧運河のころは、ここから更に数百メートル先まで伸びていたようですが、その辺は今は賑やかな大通りになっています。青いビルの一階は、カーゴ Cargo（貨物）というヘンな名前のレストラン。昔、船に貨物を積み込む施設でもあった所かもしれません。その前には運河に向けてテラス席も用意してありましたが、私たちがここに居る間は、まだ外で食事、という陽気ではありませんでした。

左手のビルの一階にもレストランが三軒、どの店も混雑するほどの客の入りは無いよう

で、ここも黄信号かな？という感じ。これらのビルの二階より上はオフィスか住宅になっていました。

*

ビジター用棧橋の先客は二隻のみ。

紫色のボートはワイド・ビーム **wide beam** と呼ばれるもので、ナロー・ボートより巾が広く、普通、9フィートから13フィートぐらいです。当然ながら内部はとても広く快適で、船上生活をするにはもってこいです

その代わり多くの運河の巾の制限は7フィート未満ですから、通行できる運河は限られます。ちなみに、この運河では11.5フィート未満がリミットです。

このボートの住人とは結局一度も顔をあわせる機会がありませんでした。

Little Weaver の奥の青いボートはラソーに住んでいる老夫婦でした。いい所そうだから帰りにはラソーで一泊するつもり、と言うと、とても喜んで色々教えてくれました。

彼等もリタイヤ後の生活をのんびり船上で楽しんでいるようでした。

さて、これでクルーズの往路は終了。次回はエディンバラ見物にいきます。

ではまた。 R & N

今回の更新で容量制限をオーバーしてしまいましたので、第1号は削除しました。

以後、更新するごとに、古い号から一つずつ順に削除してゆくこととなります。

ご了承下さい。
